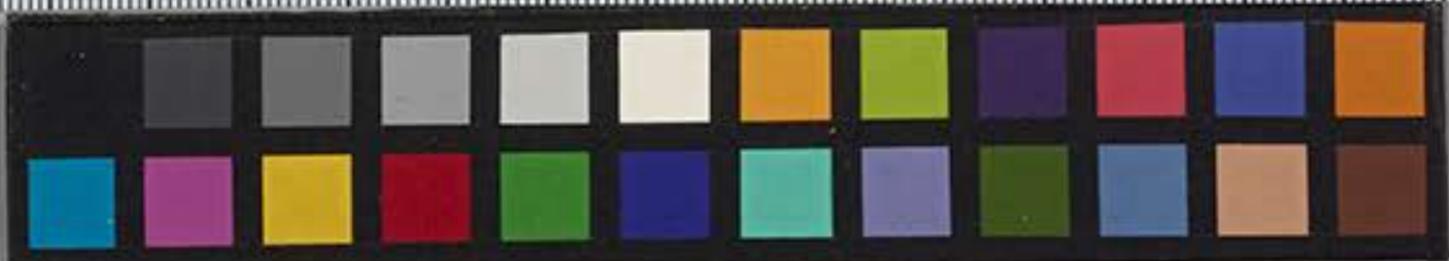


「真理とは何か」(田辺高校新聞)

一九四八年九月

Kyoto University



1948. 9.

眞理とは何か (承前)

— 現代の哲學的課題の探究 —

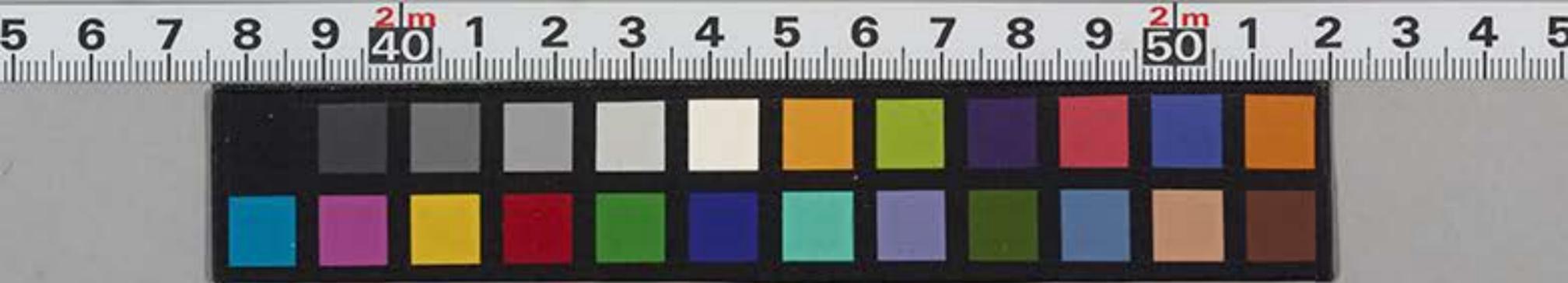
上山春平

(二) 實存主義

A

實存的思想は魂の制度を以てする思想であるとキエルケゴールは規定した。キエルケゴールにおいて強烈な緊張関係の現る「魂の制度」が、それがあつたように、ニイチエにおいては三十六歳のときにおけるひん死の瞬間は彼の魂に深くかつ深きがなき「制度」をこめてその思想活動に大轉換を興へるに至つた。ニイチエがキエルケゴールと共に實存的思想の境を穿つたことは今日ではほとんど常識になつてゐるが、私は彼の著作にキエルケゴール(一八二二—一八五〇)の同時代人である哲學的作家ドストエフスキイ(一八一—一八八二)を加へるときへも名づけ得るのである」と云つた。ニイチエの性格がいよいよはつきりして来るように思ふ。シイトはドストエフスキイに關する有名な講演の中で「ニイチエ・ドストエフスキイ・フロウニン及びフレイクはたしかに同一類もつてゐる。彼は二十八歳のとき

に政治犯として檢査され、死刑の宣告まで受けた後に減刑されて二十七年の流刑と兵役の生活をシムリヤに送つた。この十一年が彼の創作活動にとつて重大なる轉機を意味したことは周知の事實である。彼等はひとしくかつてその生々しい魂の開口より—その生命の深淵をつすべき風刺より—存在の深淵を顯現させたのだ。そしてその深刻な印象こそは、彼の創作活動のくめと織り合せの源泉となつたのである。私は以下において、キエルケゴール・ドストエフスキイ及びニイチエの、それぞれの独自の「魂の制度」に照れつつこれらの人々の思想の源泉をさぐり、實存的思想の性格を明かにしたいと思ふ。



△ドストエーフスキイ

死 流 刊

一八四八年二月、共産黨宣言の發表直後、パリに革命が勃發した。ウインやベルリンをおそつた革命の熱風は專制ロシアには吹き及ばなかつたが、政府當局は不穩分子を捜しまわつた。ベトラシエフスキイ陰謀事件をでつち上げた翌四九年、ドストエーフスキイはこの事件の被疑者の一人として檢擧された。當時における彼の政治的・社会的所説が如何なるものであつたかは、はつきりしないが、彼が一群のフウリエリスト達からなるベトラシエフスキイ・サークルにかなり深い關係を持つてゐたことは確からしい。彼は裁判の結果死刑を宣告されたが、刑の執行の寸前に減刑されてシベリヤ流刑といふことになつた。それから約十年間にわたる監獄と兵舎生活が始まるのである。當時の彼の心境は、夫々、四年間の獄窓生活を終へた直後及びシベリヤに服役中に書かれた次の書簡の言葉の中に伺はれる。「私は過去四年間を壁の後で過しました。……この四年の

間、私の魂・信念・精神心情などのうちに起つたことは貴方には申し上げません、あまり長くなりません。私が傷ましい現實を避けて、絶えず冥想に耽つてゐたことは無駄なことではなかつたでせう。私はいま、以前に豫想だもしなかつた欲望や希望を持つてゐます」(一八五四年三月二二日付實兄宛書簡)實のところ、私は軍務以外には仕事はないのです。表面的な事件も、私の生活上の屈托も別に變つた出来事もありません。しかし、魂と心と、精神のうちには起つて、芽生えて来るもの、實を結んだもの、萎れたもの、毒薬と同じやうに投げ棄てられたもの、そのういふことは、少しばかりの紙の上では云はれられませんし、語られるものにはありません。……概して監獄は私の中で澤山なものを破かいしましなす。……(一八五四年三月二七日付實兄宛書簡)以上の記述によつて、約十年間のシベリヤ生活がドストエーフスキイの魂に如何ほど

深刻な影響を與へたかといふことが、ほゞ推察され得るであらう。この期間こそ彼の作家生活を前後兩期に分つ重大な轉換の行はれつゝあつた時期である。死刑の宣告以來、生涯彼をとらえて離さなかつた死の豫感と悲慘な獄舎生活とは、彼に自己の生存の意義に關する眞剣な思索を強要し、彼をして、己の生命をなげうつ者とする者(これを失ひ、己の生命を與へる者)に己の生命をなげうつ者)に近づせしめた。……(一八五四年三月二二日付實兄宛書簡)……

「地下生活者の手記」より「カラマゾフの兄弟」に至る後期諸作品の創造の源泉である。キエルケゴールが、その回心の後に書いた「死ぬる病」において、絶望を徹底的におしつめることがかへつて神への正しい道であると説くのと同様、ドストエーフスキイも後期の作品においては、吾々に眞の自由を與へるキリスト教的眞理への道は、限界を知らぬ狂猛激烈な反逆的自由の闇黒と深淵と分裂と悲劇とを通ることによつてのみ到達される、といふ確信を繰返し展開してゐる。……(一八五四年三月二二日付實兄宛書簡)……

「創痕」をよめ、またこの「創痕」より芽生へた新たな生命の樹が如何なる實をむすんだか、といふ問に對する解答の緒を吾々は見出すことが出来るであらう。そして之こそ彼の思想を即ち彼の實存的思惟を、解明するたぬの根本的問題であることは云ふ迄もない。今や吾々は、「ドストエーフスキイは人間心理に關して私が學んだ唯一の人である。」と告白した、彼の

精神的兄弟、フリードリッヒ・ニイチエの思想的源泉に就て考察をすすめる時期に到達した(未完)

